

### 第3回実践観光学習・見学会レポート 大磯見学

---

東京都公立大学法人では、著名な講師の方々から観光についての大局観や専門知識を学ぶ「観光戦略研究会」と併せて、実際の現場を訪ねて見学することを目的とした「実践観光学習・見学会」を不定期で実施しています。

最終年度となる今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光産業がこれまでに経験したことがない甚大な打撃を受け、依然として厳しい状況にあります。こうした状況下で、観光産業の活路として注目されているマイクロツーリズムやテクノロジーの活用の可能性を探る見学会を3回にわたり実施致します。

マイクロツーリズムは、第3回観光戦略研究会の講師としてお迎えする星野リゾート星野佳路代表が早くから提唱され、感染拡大防止と地域経済を両立させる観光として注目されています。With コロナ期における観光のあり方としては、「観光が感染拡大に貢献しないこと」であり、移動しても感染リスクが低いエリア内を地元住民や近隣住民に楽しんでもらう動きが各地で始まっています。

2020年12月10日（木）、神奈川県大磯町を訪問しました。大磯町は、太平洋に面し、気候が温暖であり、明治時代には大磯駅の開業と鉄道の開通が重なり、保養・療養目的で多くの著名人が別荘や邸宅を構え、長期滞在するようになりました。また、8人の宰相が別荘や邸宅を構えたことから「明治政界の奥座敷」とも称され、今年11月には、明治期の立憲政治の確立に貢献した先人の業績を後世に伝えるために整備された明治大磯記念邸園が開園しました。

## 地福寺

---

文豪・島崎藤村夫妻の墓碑が建つ地福寺。藤村の命日の8月22日には、（社）大磯町観光協会による「島崎藤村忌」が開催され、藤村ゆかりの人々や数多くの藤村ファンが献花に訪れています。

藤村の墓碑は、生前に藤村が愛でた20本ほどの梅の木に囲まれ、毎年2月頃になると、梅の花が境内一面に咲き誇ります。



地福寺本堂

## 明治記念大磯邸園

---

伊藤博文、大隈重信、西園寺公望、陸奥宗光といった立憲政治の確立に重要な役割を果たした人物にゆかりのある別荘や邸宅が保存され、明治の歴史やその意義を後世に伝えるとともに、文化の発信や憩いと交流の拠点となる場として整備され、2020年11月3日に第1期開園を迎えました。

「邸園」とは、神奈川県が推進している「邸園文化圏再生構想」由来しており、邸宅と庭園をあわせて「邸園」と称しています。第1期開園では、旧大隈重信別邸、旧古河別邸と陸奥宗光別邸跡、旧古河別邸の庭園が公開され、今

後、旧滄浪閣（伊藤博文邸跡・旧李王家別邸）、西園寺公望別邸跡と旧池田成  
彬邸も整備され、順次、開園する予定となっています。



旧陸奥宗光邸

## 旧吉田茂邸

---

旧吉田茂邸は、戦後の内閣総理大臣を務めた吉田茂が暮らしていた邸宅で  
す。もとは明治17年に吉田の養父・健三が大磯の土地を購入し、その地に別  
荘を建てたのがはじまりで、養父亡き後の財産の一部として吉田が邸宅を引き  
継ぎます。外交官を経て、外務大臣に就任した昭和20年に大磯の邸宅を本邸  
とし、亡くなる昭和42年まで過ごしました。

吉田の死後、不運にも火災により焼失。現在の建物は平成 29 年に当時の邸宅を復原したものになります。幾何学模様で代表されるアール・デコ調が特徴の食堂や賓客を迎えるための応接間などが再建され、一般公開されています。



旧吉田茂邸



食堂「ローズルーム」



応接間「金の間」

今回の見学会では、半日の滞在と僅かな時間でしたが、地元ガイドさんに案内していただき、明治の精神に学び、日本の強みを再認識することができる大磯でマイクロツーリズムの可能性について探究し、大磯の魅力を再発見することができました。